

## 春から夏の行事カレンダー

### ●企画展「ちょっと昔のくらしの道具展」

期 間 5月6日(火)まで

内 容 道具をとおり、昔のくらしを振り返ります。

### ●収蔵品展

期 間 5月24日(土)～6月29日(日)

内 容 新しく収蔵された資料を中心に展示を行います。

### ●企画展「夏休み子ども博物館」

期 間 7月19日(土)～8月31日(日)

内 容 小学生を対象に、コーナー展示と、昔のあそびやおもちゃ作りなどの「体験教室」を行います。

### ●親子探鳥会

日 時 6月14日(土) 9時～12時頃

内 容 見沼たんぼでバードウォッチング  
対 象 小学生とその保護者20組(要申込)

集 合 9時に浦和博物館集合

その他 雨天決行。双眼鏡なくても可

### ●夏休み体験教室

#### ●手作りおもちゃ

日 程 7月26日(土)

#### ●見沼通船堀の仕組み実験

日 程 8月2日(土)・3日(日)

※この他にも体験講座を実施します。内容や日程などの詳細は「市報さいたま」に掲載します。

## 日誌抄

H25. 10/20(日) 定例探鳥会(中止)

10/26(土)～12/15(日) 特別展

11/6(水) 体験学習(常盤小3年生)

11/10(日) 学芸員による展示解説

11/15(金) 体験学習(新郷東小4年生・飯仲小4年生)

11/16(土) 拓本講座

11/17(日) 定例探鳥会

11/30(土) 学芸員による展示解説

12/21(土)～H26. 5/6(火) 「ちょっと昔のくらしの道具展」

H26. 1/11(土)～13(月) 昔のあそび体験コーナー(こま、めんこ、おはじき、けん玉など)

1/13(月・祝) おもちゃづくり(干支を描いた凧を作って遊ぼう)

1/15(水)～17(金) 中学生職場体験(美園中学校)

1/19(日) 定例探鳥会

1/21(火)～23(木) 中学生職場体験(木崎中学校)

1/22(水) 体験学習(三室小学校)

1/28(火)～30(木) 中学生職場体験(東浦和中学校)

2/1(土)～5/6(火) 道具さがし

2/4(火)～6(木) 中学生職場体験

(三室中学校)

2/6(木) 体験学習(浦和ルーテル学院)

2/16(日) 定例探鳥会

3/16(日) 定例探鳥会

3/21(金)～23(日) 昔のあそび体験コーナー



▲中学生職場体験 小学3年生体験補助

さいたま市立浦和博物館報 あかんさす No.107

編集・発行 さいたま市立浦和博物館

〒336-0911 さいたま市緑区大字三室2458番地

TEL・FAX 048-874-3960

発行日 平成26年3月20日

ホームページ <http://www.city.saitama.jp/>

E-mail [urawa-museum@city.saitama.lg.jp](mailto:urawa-museum@city.saitama.lg.jp)

この館報は2,000部作成し、一部当たりの印刷経費は25円です。



さいたま市立浦和博物館館報

## あかんさす

VOL. 42-2  
通号 第 107 号

ACANTHUS : BULLETIN OF SAITAMA MUNICIPAL URAWA MUSEUM

## 江戸時代の石造物にみられる石工名



▲見沼区片柳路傍（常泉寺近く）



▲見沼区片柳路傍（大宮聖苑近く）



見沼区片柳には、同じ年、同じ願主によって2基の庚申塔が建てられました。上記2基の庚申塔がそれで、塔身には、「文化七庚午十一月吉祥日」（1810）、「武州足立郡南部領片柳村」の銘が、台石には「願主 片柳村 秋本猶右工門」らの名前が刻まれています。また、塔身の裏側には「林道町石工 武兵工」と石工の名前が見られます。林道町とは、今の岩槻区仲町の大部分を指します。林道町の石工が、ここで活動していたことが、この庚申塔からわかります。

市内には、数多くの江戸時代の石造物を見ることができますが、製作者である石工の名を刻んだものは少なく、151基しか確認できません。名前を残すからには石工の自信作であったのでしょう。どのような石工が活動していたのか、次頁で紹介します。

## ■ 目 次 ■

江戸時代の石造物にみられる石工名	1～3
春から夏の行事カレンダー	4
日誌抄	4



市内の江戸時代の石造物に刻まれた石工名は、市内東部は岩槻の石工、市内西部は与野の石工、また緑区を中心とする八丁石工に大別できます。そのほか上尾・川越・越谷・春日部・草加・川口・蕨などの近隣の石工や江戸の石工の名前を見ることが出来ます。

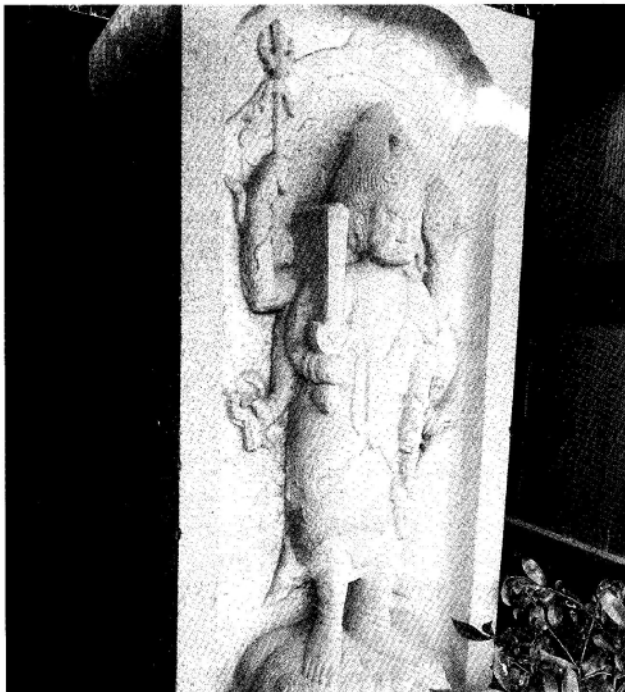
それでは、市内で活動していた石工についてみてみましょう。

### 岩槻の石工

11名、43例の作品を見ることが出来ます。多くは「市宿町石工」「林道町石工」と刻んでいますが、「岩槻石工」と刻んだものもあります。阿須間文治と星谷氏の2名で、阿須間文治は、見沼区に2例を残すのみですが、林道町に居住していたことがわかっています。星谷氏は緑区の重殿社の階段石に「石工岩付 星谷氏」とあるのみで、詳しいことは分かっていません。

### 〈市宿町石工〉

現在の岩槻区本町に居住した石工です。萩原姓を名乗り、正徳5年銘（1715）の庚申塔（見沼区東宮下／氷川神社）に刻まれた「市宿町 萩原利右衛門作」を初見とし、三右衛門・利兵衛・伊兵衛の4人の名前を見ることが出来ます。4代84年間にわたり、岩槻区・北区・見沼区に16の作例を残しますが、寛政10年銘（1798）の庚申塔（見沼区片柳／個人宅）を最後にその名前が見られなく



▲寛政10年銘の庚申塔（大宮共立病院近く）  
「岩槻市宿町石工 萩原伊兵衛」

なりました。

その他、市宿町石工を名乗るものに「忠右衛門」がいますが、岩槻区宮町の久伊豆神社に安政4年銘（1857）、文久3年銘（1863）の石燈籠2基に名を残すのみで、詳細は不明です。

### 〈林道町石工〉

現在の岩槻区仲町に居住した石工です。安永2年銘（1773）の不動明王像（見沼区東大宮／観音堂）に「林道町石工 田中左與七」と刻むのが初見です。その後、市宿町石工萩原伊兵衛と入れ替わるように「林道町石工 田中武兵衛」の名前が見られるようになります。伝承によると、武兵衛は関東一の石工であったといえます。清浄院（北区吉野町）の享和2年銘（1802）地蔵菩薩像に「岩槻林道町石工 武兵工」と刻むのが初見で、岩槻区・西区・北区・大宮区・見沼区・緑区で16の作例を見ることが出来ます。期間は、60年間に及ぶため、武兵衛と名乗る人物が2人以上いたと考えられています。他に「林道町石工 金超善治郎」「林道町石工 松五郎」の作例が各1例ずつありますが、詳細は不明です。

### 〈加倉石工〉

文政13年（1830）から慶応3年（1867）の間に4例が確認できます。「加倉石工 三五良」「岩槻加倉石工 田中三五郎」と刻んでいます。慶応3年銘の岩槻区村国の久伊豆神社の狛犬は、金超善治郎との共作です。

### 与野の石工

11名、25例の作品を見ることが出来ます。「与野町石工」と刻むものが主で、他に「小村田村庄吉」「石工当村（大戸） 藤介」の名前を各1例見ることが出来ます。

与野町の石工の作例は、北区と大宮区で岩槻の石工と重なるものの、中央区・西区・北区・大宮区・桜区に分布しています。初見は、享保18年銘（1733）の大木戸薬師堂（西区指扇）にある地蔵菩薩像に刻まれた「与野町石工 高内半介」です。この1例しかないため、詳細は不明ですが、鴻沼川にかかる赤山橋のたもとに立つ享保11年銘（1726）の石橋供養塔には「大木戸石工 高内源太郎」と刻まれており、もしかすると大木戸から与野町に移ってきた石工の一族かもしれません。他に、「石工与野町 永嶋伝右門 同与八」と刻んだ宝暦4年銘（1754）の観音菩薩像（北区本郷



町／高林寺)や、「石工与野町 井原右門光泰」と刻んだ慶応3年銘(1867)の石灯籠、「石工与野□ 藤□」と刻んだ享保11年銘の六地藏石幢(むくぢょう)がありますが、一番多いのは佐藤一族の作品です。

佐藤氏の作例の初見は、「与野町石工 平左工門」と刻んだ大泉院(桜区大久保領家)の寛延2年銘(1749)の地藏菩薩像です。平左工門を名乗るものも2人以上いたようで、平左工門が没した宝暦3年(1753)以降にも「与野町石工 平左衛門」、「石工与野町 山田平左工門」「与野町石工

佐藤平左工門」の名前が見られます。なお、山田姓は、母方の姓を名乗ったものと考えられています。



▲宝暦6年銘の石橋供養塔(与野東中学校)  
「石工与野町 山田平左工門」

継いだ佐藤太平治は文化4年銘(1807)の大宮区櫛引町の氷川神社の鳥居に「与野住石工 佐藤光重」と刻んだのを初見とし、「与野町石工 光重」「与野町石工 佐藤太平治光重」「与野町石工

佐藤太平治」など、約20年間、8の作例を見ることができます。太平治の後、太四郎、良吉と安政4年(1857)まで105年間、与野町石工の本流であろう佐藤氏の19の作例を見ることができます。

## 八丁石工

現在の緑区大間木、見沼通船堀を背に八丁堤に居住した石工で、5名14の作例を見ることができます。初見は文化3年(1806)の供養塔(緑区芝原／地福院)で「大間木新田石工 秋元□」と刻んでいます。下の名前はわかりませんが、文化5

年銘の石灯籠(緑区中尾／中尾神社)には「秋本彦三郎」、文化7年銘の庚申塔(見沼区上山口新田路傍)には「秋本由永」の名を刻んでいます。ともに「大間木新田石工」を名乗っています。大間木新田とは、見沼の干拓でできた新田のことで、ここに住まいしたことが由来と思われますが、次の兼右衛門からは「八丁石工」を名乗ります。見沼通船も既に行われていた時代であり、「大間木新田」というよりも「八丁」と名乗った方が、通りがよかったのかもしれませんが、兼右衛門は2代にわたって名を受け継ぎ、他に初五郎、喜太郎の名前も見ることができます。作例は緑区中心に見沼の周辺に点在しています。これは、見沼の舟運と深いかわりを持つものと考えられます。

## その他の市内の石工

この他には、「浦和石工 与八良」、「大間木村石工 藤田良正本」、「石工飯田新田邑 岡田治平衛」、「石工浦和宿 権八」、「石細工上加村 増田 佐右衛門」、「浦和石工 権八良」、「浦和領石工 成目三次郎」、「大門宿石工 清次郎」、「石工田島村 重次郎」、「大宮石工 金五郎」、「浦和下石工 寅吉」、「大門石工 弥七」の名前が見られますが、それぞれ作例が少ないため詳細は不明です。

## 県内の石工

隣接する上尾・川越・越谷・川口・蕨・草加・春日部の石工の名前も見ることができます。主に市境を中心に11名、16の作例があります。

## 江戸の石工

浅草や神田、深川など江戸の石工の作例は20名21の作例があります。調神社(浦和区岸町)の社頭にあった狛犬ならぬ兎の像(現在は境内)は板橋宿の兼吉の作例です。

## 居住地不明の石工

居住地不明の石工は17名います。中央区の圓乗院にある寛永15年銘(1638)の地藏菩薩に刻まれた「石屋 半右衛門」は、市内で最も古い石工名です。居住地がわからないのが、残念です。(T)

※石工名の確認は下記の資料を主としているため、現存していないものも含まれる。

『与野市史』『岩槻市史』

『わたしたちの博物館』第4号(大宮市立博物館)

『浦和市博物館研究調査報告書』第24集

『岩槻市における石工について』(『日本の石仏』46号)

